



医療健康情報管理者研修会 開催報告

主催：一般社団法人 医療健康情報認証機構（JACHI）

一般社団法人 医療健康情報認証機構（会長 田中 滋 慶応義塾大学 名誉教授）主催の
「医療健康情報管理者研修会」が、2016年2月20日（土）午後1時より、
インテリジェンスプラザ（YS 新横浜ビル5階）において開催されました。

JACHI では、医療健康情報の健全な発展を推進するため、「Web 情報の適切な管理」と「信頼性の高い健診情報の確保」を目指しています。そのため、医療健康情報の利便性や問題点を理解し、その内容や質の維持管理と客観的な評価ができるプロフェッショナルな人材の育成を活動の大きな柱としています。

医療健康情報管理者研修は、健診や人間ドック施設業務に関わっている方を対象に、「Web 認証」「情報品質認証」で要求される事項、また健診情報を適切に伝達するために必要とされる評価項目、手続きなどを体系的に習得することを目的としています。

研修会の各講義の前後に受講前確認テスト及び受講後確認テストが行われ、個々の理解度が測れる仕組みとなっております。研修会終了時に修了証が発行され、その後「医療健康情報管理者」資格が認定されます。

今回の研修会での講義内容は「情報セキュリティの基本」、「JACHI 原則」の講義の他、「健診料金と健診情報品質」をテーマに、健診が不当販売によって

情報品質の劣化や健診の質の低下を及ぼし、それがもたらす優良機関の撤退、健診受診者の健康被害の防止の困難化等、社会的な意義（影響）について講義がありました。

今回の研修会には全国から多数の受講者が参加されました。

◆◆ 講義内容 ◆◆

1. 情報セキュリティの基本

橋本 誠 氏（バイオコミュニケーションズ(株)
企画室参与 情報セキュリティスペシャリスト）

2. Web 認証概論（JACHI Web 原則）

吉田 勝美
（JACHI 専務理事、産業医科大学 産業衛生教授）

3. 健診情報品質の確保、セキュリティ （JACHI 情報品質原則）

大神 明 氏（産業医科大学 産業生態科学研究所 教授）

4. 健診料金と健診情報品質

杉田 稔 氏（東邦大学 名誉教授）

講義 1. 情報セキュリティの基本

橋本 誠 氏

(バイオコミュニケーションズ(株) 企画室参与
情報セキュリティスペシャリスト)

◆情報セキュリティ動向

2015年の日本年金機構の個人情報流出事件では125万件の個人情報流出した。e-mailの添付ファイルの開封により、遠隔操作マルウェアが感染した事件である。不審メールへの警戒不足、組織内での



講師：橋本 誠 氏

のルール違反、インシデント発生への対応遅れが原因としてあり、この事件から学ぶべきことは多い。

警察庁の発表によると昨年（2015年）のサイバー空間での脅威は、メール攻撃が増えている。

手口は、ばらまき型（一度に数万件）、非公開メールアドレスに対する攻撃が約9割、送信元のアドレス詐称、確定申告にまつわるもの、インターネットバンキングの不正送金（メガバンクだけではなく小さい信用金庫等）が多く、2016年も同じ傾向がみられると予測される。添付ファイルに議事録と書かれているものや、二重拡張子になっており開封させる仕掛けがされている。年金機構の事件のように添付ファイルを開くことで感染した際、画面上での変化がないため気づきにくい。また、拡張子の「exe」を偽装したり、アラビア文字へ対応するための「RLO」を使ったものがある。これらへの対策としては、拡張子を表示し、ウィルス対策ソフトを使用する等がある。

偽メールや嘘のURLへの対策としては、リンクを安易に開けず、ソフトウェアやパターンの更新、パスワードは8ケタ以上で英数記号を組み合わせる、送信ドメイン認証技術等を行う。また、機微な情報は暗号化する、アクセス権を適切に設定する、ネットワークを適切に分離する、USBでのデータ受け渡しの際はウィルスチェックをかけてから行う等、被害低減の対策も行う。

◆マイナンバー制度と情報セキュリティ

マイナンバーは法令で定められた目的以外の取扱い禁止であり、違反した場合は罰則がある。漏えい・

紛失・毀損等の防止、その他適切な管理のために、適切な安全管理措置を講じる義務が企業にはある。

マイナンバーの管理方法は、紙のみで行う場合と電子化する場合があるが、それぞれにメリットとリスクがある。紙のみによる運用は簡単だが20名位までが限度である。電子化の場合、不正アクセスで一気に情報が漏えいすることや、内部の不正利用、モラル不足等のリスクがある。代行、受託、会計パッケージなどのサービスを使用するなどの対策を講じる。

◆情報セキュリティ確保のポイント

情報セキュリティリスクへの対応の7つの対策はISO31000に準じてISO/IEC27000で規定されている。情報セキュリティの実践的な管理策はJISQ27002にある。

アクセス制御の基本として、アクセスコントロールの3本柱を挙げると、識別、認証、権限管理となる。情報セキュリティは人が関与するのでシステムのみでの対応では不可能である。情報セキュリティの確保のためには、「必要な知識を得て、適切な見識を持ち、意識して行動する」“人”を育てることが大切である。

医療機関では情報の保護、データの正確性、患者の生命維持が重要テーマであるが、それらに対するリスク源と事象はどのようなものがあるかを洗い出し、結果はどうなるかを評価する。それでどのような安全管理をとるかを考えることで、適切かつ経済的に情報セキュリティの確保が可能となる。

講義 2. Web 認証概論（JACHI Web 原則）

吉田 勝美

(JACHI 専務理事、産業医科大学 産業衛生教授)

情報を発信する側で特に気をつけるべきなのは「広告」か、「事実情報」かの区別である。そしてその事実情報をいかに伝えるかを考えるべきである。

JACHI 原則は Web 情報・健診情報を扱う際の倫理的側面が盛り込まれている。原則の1～10は Web 情報に



講師：吉田 勝美

関して、原則11～14は健診情報に関する原則である。

原則1～10を説明する。原則1～4、7、8、10が各健診機関の中心・中核となる部分で、原則5、9の受診者（保険者）、原則6の外部リソースの3つの要素で構成されている。

◆◆ JACHI Web 原則 ◆◆

- 原則1. 説明責任の原則
- 原則2. 著者表示の原則
- 原則3. 開示の原則
- 原則4. 医療健康コンテンツ原則
- 原則5. インフォームドコンセント原則
- 原則6. リンクとパートナー原則
- 原則7. 管理職による監督原則
- 原則8. ポリシーと手順原則
- 原則9. プライバシー原則
- 原則10. セキュリティ原則

講義3. 健診情報品質の確保、セキュリティ (JACHI 情報品質原則)

大神明氏（産業医科大学 産業生態科学研究所 教授）

私は情報品質の専門ではないが、産業医を育てており、産業医として健康診断（健診）に関わっている。産業医活動は健診の結果ありきであるため、正確で信頼のおけるデータであることが重要である。一方で、産業医が取り扱う一般健診やストレスチェックの情報については混乱した状況となっている。それは、一般健診やストレスチェックが、がん検診のように病気を発見する目的ではなく、心身や職場の健康状況を把握するという目的のためである。その上、ストレスチェックは、その結果を会社に知らせずに産業保健スタッフ（実施者）のみが扱うことになり、



講師：大神明氏

これまでになく、情報の取扱いに注意が必要となっている。

また、健診のデータはバラバラな形で産業医の所に流れてくる。今までは紙ベースであったが今後はデジタルベースでのデータのやり取りになってくる。

データを包括的に管理、格納する時代になってきている。その場合、何が必要なのか、健診の情報の品質保証、作業管理基準、データ管理、データ交換はどうしたらいいのか考えると、物事がクリアになるのではないだろうか。やるべきことと、整理すべきことを併せ持つて考えていくことが必要である。

JACHI 原則は、信頼性の高い健診情報を利用者に提供するための原則を定めている。

◆◆ JACHI 情報品質原則 ◆◆

- 原則11 健診情報品質保証の原則
- 原則12 作業管理基準の原則
- 原則13 データ管理の原則
- 原則14 データ交換の管理原則

講義4. 健診料金と健診情報品質

杉田 稔氏（東邦大学 名誉教授）

産業医の実務として、健診情報が正確で、信頼できるものであれば、それに基づき、健康管理、安全配慮、適正配置など産業医業務を実施でき、研究成果（追跡研究をできる意義がある）も出すことができる。また、より



講師：杉田 稔氏

よい医療・健康対策・健康政策につながる。

一方、低品質の情報であれば、質の悪い研究成果となり、産業医活動の質や医療・健康対策・健康政策などに影響することになる。JACHI 原則11「健診情報品質保証の原則」はキーとなっている。

◆ 不当廉売（ダンピング）

健診価格を非常に安価にする不当廉売（ダンピング）の弊害が問題となっている。採算を無視するような安価で、競合の同業他社を市場から排除し、市場で大きな利益を上げるため行われている。

健診の質を確保するためには、人、物、時間、資金が十分に投入されることが必要不可欠である。しかし、不当廉売によって、コストを削減することで健診の質は低下し、一方で優良機関が市場から撤退

する。つまりは、健診受診者の健康被害の防止が困難になり、その結果、社会的損失につながる。

最近おきた軽井沢においてのバス会社の事故の例は、不適格な人材を安く雇い、安い料金設定にしていたことで起きた事故である。同じことが健診の不当販売にもいえ、社会に害を及ぼすことになる。

健診機関が不当販売をするには、経費コストを大幅に削減しなければならない。健診のコストの大部分は人件費である。人件費を削減するには、人数を減らすというような量的削減（人件費の量的削減）と正規雇用から非正規雇用（モチベーションを保つことが難しい）への移行や、未熟・経験が浅い人材が多くなるなどの質的削減（人件費の質的削減）がある。人件費を必要以上に削減すれば、トラブルになる確率が高くなる。健診医に欠員がでた場合その補充に二重医者があてられるリスクや、技量確保・向上のための教育機会の損失などによって、情報の品質の低下がおこる。

◆ 健診機関の選定

企業や公的機関が財やサービスを調達する方法として、①品質を固定し価格競争、②価格を固定して企画競争、③品質と価格の総合競争、④随意契約方式がある。価格というのは見えやすいため、価格競争が広がっている。健診実施業者を選定する際は産業医のような産業保健担当者ではなく、事務担当者が契約することが多い。必要経費削減による低価格では健診品質が低下するが、外部から見えにくく、わかりにくい。価格はわかりやすいため、価格によって健診機関を選定することになり、毎年健診機関が変わることになる。毎年健診機関が変わると、フォーマットが変わり、利用の観点からは情報の劣化につながる。本来は、健診結果個人票フォーマットは過去データの取得などの点からも不変であることが望ましい。

低質な健診では、測定誤差（取扱い、機器の不具合、試薬変更）や、画像診断の判定が不適切であったり、精査率（要精密検査率）が高かったりする。

健診の質の低下は産業保健活動の質の低下につながり、バス事故のようなことが起こる危険性がある。

健診業者選定では、価格競争方式は不適切である。産業医は産業医業務をする中で健診の質がある程度わかるため、産業医などの専門職がその選定に関われば、その弊害を排除できる。しかし、事務担当者が健診の質を考慮せずに、健診価格の削減のみで選定すれば、質の高い健診を供給している良好な健診業者をその市場から排除することになり、結果的に大きな社会的損失につながることになる。

次回開催のご案内

JACHI「医療健康情報管理者」研修会

日 時 2016年 8月27日（土）

開 会 13：00～閉会16：30（受付12：30～）

会 場 YS 新横浜ビル 5F

インテリジェンスプラザ

横浜市港北区新横浜2-15-10

JR 新横浜駅より徒歩 6分

※参加人数により、会場が変更になることがあります。

テーマ

1 情報セキュリティの基本

講師 橋本 誠 氏

（バイオコミュニケーションズ(株) 企画室参与
情報セキュリティスペシャリスト）

2 健診情報品質の維持向上

講師 杉田 稔 氏（東邦大学 名誉教授）

3 ストレスチェックにおける Web 利用での運用上の注意点 ～産業医契約問題も含む～

講師 吉田 勝美

（JACHI専務理事、産業医科大学 産業衛生教授）

4 Web 環境のセキュリティ要件

～利便性と問題点～

講師 石黒 満久 氏

（株式会社NTTデータ中国 法人事業部
ヘルスケア&クラウドサービス部）



◆ お問い合わせ先 ◆

一般社団法人 医療健康情報認証機構（JACHI）

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-15-10 YS 新横浜ビル 5F インテリジェンスプラザ内

TEL：050-3776-9203 FAX：045-534-7556

E-mail：info@jachi-md.org URL：http://www.jachi-md.org